

会派行政視察（令和 7 年 3 月 28 日）

会派「輝」 細田憲司 福田文治 河井美和子

視察項目 品川区における事務事業評価と財源の捻出について

品川区では、事務事業評価実施のもと、低い評価となった事業を精査し、必要のないものを廃止、令和5年度 23 億 6 千万の予算を削減した。削減した予算は、「ウェルビーイング予算—幸せ予算」として、防災・子育て支援・福祉等に充てている。この「幸せ予算」は、区民へのアンケートを元に、区民の「不安」「不満」の「不」を無くすことを目的として編成され、非常に注目を集めている取組である。

事務事業評価の取組自体は、平成28年から実施されており、形だけのマンネリ化していた取組を一新し、令和5年度から665の事業に対して本格実施、その結果をすべて HP で公表することも約束している。令和6年度も20億円の予算削減がなされており、毎年全予算の1%の無駄を省き、「幸せ予算」に還元させる事を目指している。

取組にあたり、まず全部署が使用・提出する「行政評価シート」(A3 1 枚)の定型を創り、考え方・取組み方を徹底していった。6～8月に各部署にてシートを作成、9月にシートを企画部に提出(評価なしのもの)、9月～1月次年度予算編成作業、2月に予算特別委員会資料として「評価シート」提出(評価を明示)、その後 HP にて結果を公表する。

この取組がすすんだポイントは、評価シートが定型化された事、使い方と理念が浸透した事で進めやすくなったとのことである。自分たちが取組んでいる事業に厳しい評価をつけるには勇気がいるし、C や D をつける事で予算を削られるのではないかとの不安、現状の仕事に加え、評価と改善に取組む負担感は大きかったが、区長の方針の下で企画経営部企画課の9人が中心となって、全体会議での発信や個々の部署に伺っての話し合いで、何度もキャッチボールを繰り返し、必要性・有効性・効率性を訴え、成果として23億の予算の財源を生み出す事がで

きた。

エネルギーを注いだ点は「C や D の評価はダメという事でも失敗でもなく、改善の余地を見つけること。改善点を見つける事は、区民にとっても職員にとってもプラスにつながる」という考え方を、繰り返し示していくことだった。

また、この事業の始めにおいても継続においても、一番必要な事は「このままではいけない」という「危機感」であったとのことで、その点非常に共感した。

説明を受け、納得できる点、共感できる点が数多くあった。事務事業評価を取り入れている自治体は数多くあると思うが、評価で終わっている自治体が多い中、自分たちが取組んでいる事業について「客観的」「冷静に」「厳しく」評価し、無駄や必要性の低いものに対して自分たちでメスを入れ、財源を生み出すというのは、非常に「勇気」がいるし、「決断力」と「実行力」も必要。「痛み」も伴ったと思うが、その「痛み」にフォーカスするのではなく、区民のニーズや「満足」「安心」「幸せ」にフォーカスする「目的」を明確にすることで、職員の「負担感」を「やりがい」や「誇り」に変えようとしている素晴らしい取組であると感じた。

物価高騰で市民が悲鳴を上げている時だからこそ、市民の血液そのものである「税金」を決して無駄に使うことなく、自分たちの事業の「費用対効果」を考え、財源を無駄に使わない、むしろ市民のニーズに合った「喜び」につながる考え方・姿勢・取組みを示し、そのための財源を生み出すことが、選ばれる町となるための「条件」でもあると学んだ。